

ごみ固形燃料の概要

1. ごみ固形燃料とは

可燃ごみ（生ごみ、紙ごみ、廃プラスチック等）を破碎、選別、乾燥、固形化し、利用しやすい性状の固形燃料にしたものである。



ごみ固形燃料

2. ごみ固形燃料の特徴

腐敗性が少ないため比較的長期の保管が可能。

生ごみに比較して1/5～1/7に減容化（嵩比重が0.4～0.6程度）され、輸送が容易。乾燥・成形によって、形状、熱量がほぼ一定となるため、安定した燃焼が可能。

3. ごみ固形燃料の性状

1)水分

水分含有率が多い場合、かびの発生や腐敗が進みやすくなることから、一定水準以下に乾燥させることが必要である。ごみ処理施設性能指針及び日本工業標準調査会の標準情報（TR）では水分含有率の水分は10%以下とされている。

2)形状

一般的な形状は直径10から50mm程度の円柱状である。

3)単位体積重量

単位体積重量が大きいほど設備容量が小さくなり、取り扱いが容易となる。一般的な数値は0.3～0.7t/m³程度である。

4)低位発熱量

ごみ固形燃料の発熱量はごみの成分に依存するものであり、特にプラスチック成分の影響が大きい。一般的に、厨芥類は17,000 KJ/Kgdry程度の発熱量に対して、プラスチックは21,000から42,000KJ/Kgdry程度である。

(参考)廃棄物固形化燃料 TR Z0011:2002

品質項目	品質（表示）規格
発熱量	12,500kJ/kg(3,000kcal/kg)以上
水分	10%以下
灰分	20%以下
金属含有量・全塩素分・硫黄分・窒素分・かさ密度・粉化度	金属含有量、全塩素分、硫黄分、窒素分、かさ密度及び粉化度の既定値は定めないが、試験した値を報告する。